

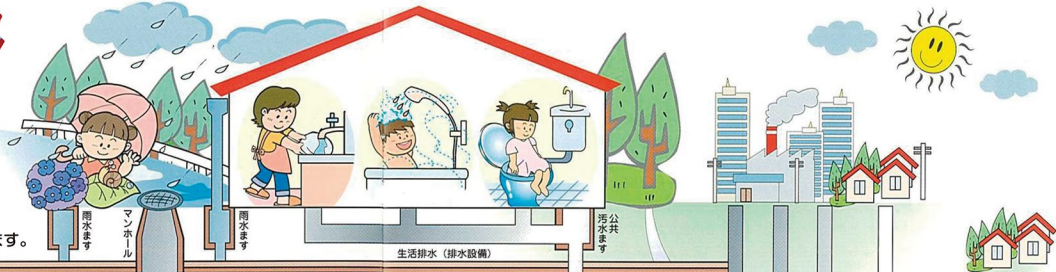
私たちが普段親しんでいる水は、姿や形を変えながら空と大地、川と海をぐるぐると旅しています。この中で、私たちの生活に関わる最後の部分を受け持つのが『下水道』です。汚れた水をきれいにしてから地球に戻しています。旅する水にとっては、お医者さんのような存在です。

【情報提供】袖ヶ浦市役所 下水対策課 袖ヶ浦市坂戸市場1番地1 電話:0438-62-3651

下水道のしくみ

生活に使って汚した水を下水処理場できれいにしてから自然に戻します。

下水を集める方法は、汚れた水と雨水を別々の管に流す分流式と、同じ管に流す合流式があります。袖ヶ浦市は、この絵のとおり分流式を採用しています。



そんな重要な役割を持つ『下水道』に関する多くのしくみや知識を知ることができる「下水道マニア!クロスワード」を作りました。ぜひ、チャレンジしてみてください!

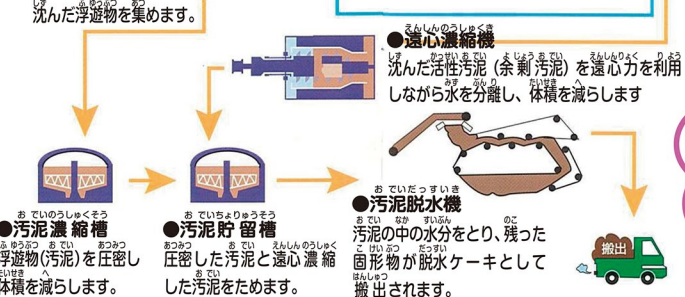


下水処理場

袖ヶ浦終末処理場では、微生物のたらしきと沈殿を利用して、汚水をきれいにして東京湾に放流しています。

残った汚泥は、水分を取り除いて量を減らし、再資源化や埋立処分を行っています。

2016年12月20日現在



ねが
お願
下水道管が詰まったり、流れが悪くなるため、ゴミ、てんぷら油、土や砂などは下水道管に流さないでください。

9月10日

皆さんは「下水道の日」をご存知ですか？

下水道の日の歴史は古く、建設省(現国土交通省)と厚生省(現環境省)により下水道の普及促進を目的として、1961年に制定した「全国下水道促進デー」が始まりとなっています。

当時の日本は諸外国に比べ下水道の全国的な普及が遅れており、下水道が使えた人の割合はわずか6%ほどだったそうです。

この「全国下水道促進デー」が2001年に、より親しみのある名前に転換が図られ、「下水道の日」と名称が変更されました。

ちなみに現在では、80%程度の人が下水道を使えるようになっており、下水道が一気に普及したことがわかりますね。また、9月10日と定められたのは、下水道の大きな役割の一つである「雨水の排除」を念頭に、台風シーズンである210日を過ぎた220日(立春から数えて)が適当であるとされたことによるものです。

こんなことに気を付けてね!

- 台所の調理くずはそのまま流さない。
- 使用済みの食用油は、新聞紙やキッチンペーパーなどで吸い取って、ゴミとして処理する。
- 無駄な洗剤は使わない。
- トイレでは、トイレットペーパー以外の紙は流さない。